

「とりアート構想 中間とりまとめ」に対する意見募集結果

- 1 募集期間 平成23年10月7日(金)から10月27日(木)まで
- 2 応募件数 総数:12件(郵便:3、ファックス:3、電子メール:3、意見箱1、その他:2)
- 3 意見件数計42 (内訳= 反映:1、 対応済:11、 今後検討:13、 対応困難:17)
- 4 意見概要と対応状況

カテゴリー	意見概要	対応状況	対 応	
1 事業目的	とりアートは発展の場ではなく、発表の場ではない。	対応困難	策定会議では、とりアートは一過性の文化イベントに終わるものではなく、イベント実施を通じた人材育成を目的とし、県内の文化芸術活動の水準を向上させることを目指すべき、という議論でした。	
2 会期	高校生が出席できる時期に事業を実施し、次世代育成や入場者数増加を図るべき。	今後検討	実施に当たり、運用で対応(とりアート期間は廃止します。事業の実施時期は次期実行委員会で検討いただきます。)	
	他の大型イベントと開催日を合わせ、入場者への割引サービス等の連携を図る。	今後検討	実施に当たり、運用で対応(とりアート期間は廃止します。事業の実施時期は次期実行委員会で検討いただきます。)	
	通年での事業実施のイメージがしにくい	今後検討	実施に当たり、運用で対応(とりアート期間は廃止します。事業の実施時期は次期実行委員会で検討いただきます。)	
5 地区事業	地区事業の公募事業は材料費にではなく、講師謝金等ソフト的な経費に補助すべき。	対応済	現事業でも、講師謝金は地区事業の交付対象経費となっています。	
6 9 10 11 12 13 メイン事業	メイン事業内容を分野毎(音楽、演劇等)に分け、委員が候補企画を出し、議論の上選定する。このことにより、企画の選定過程から県民にアピール出来る。	今後検討	実施に当たり、運用で対応(メイン事業の企画立案には先行する県民への鑑賞希望調査を前提としています。その調査結果は公表を前提としていますが、企画選定の過程を公開するかどうかについては、次期実行委員会で検討いただく予定です。)	
	メイン事業を舞台分野だけでなく、その他の分野にも広げるべき。	対応済	構想内で舞台に限るものではない旨記述をしています。	
	メイン事業の必要性及びステージを使った企画である必然性等一から再考して欲しい。	対応困難	策定会議では、メイン事業は総合的な文化芸術の事業には欠かせないという結論でした。なお、必ずしもメイン事業はステージ使用を前提とするものではありません。	
	メイン事業についての明確な定義と明文化が必要。	対応済	別に公表する予定の「とりアート構想の手引き」をご参照下さい。	
	鑑賞できない人がいたり、観客が少ないメイン事業を検証すること。	対応済	メイン事業の企画内容については、県民への調査を予定しており、より県民が望む内容の事業実施を心掛けます。	
	再演は必要ない(理由:一度の公演で最高の舞台が見たい。再演は大きな経費削減にはならない。舞台関係者がレベルアップしても鑑賞者には関係がない)。再演に当たった「八賢伝」がどのような効果をもたらしたのか報告と公開を求める。	対応困難	策定会議では、メイン事業の再演は人材活用のために必要という議論でした。今年度のメイン事業の再演の成果については別途報告します。	
	メイン事業の制作委託先は事業毎に異なるのか?	今後検討	実施に当たり、運用で対応(メイン事業の委託先は次期実行委員会で検討される予定です。)	
	メイン事業に重きを置きすぎ。地区事業はメイン事業に対して予算が少なすぎる。	今後検討	実施に当たり、運用で対応(予算配分については次期実行委員会で検討いただきます。)	
	14 15 16 17 18 19 人材育成事業	イベントよりも独立した人材育成事業を行うべき	対応済	構想ではイベントを通じた形ではない人材育成事業も行う旨記述しています。
		人材育成について、具体的な構想が必要	今後検討	実施に当たり、運用で対応(人材育成・活用プラン及び具体的な事業内容は次期実行委員会で検討いただきます。個別の事業内容まで構想に盛り込むことは考えていません。)
		人材育成は既に教育機関でも民間でもなされている。人材育成まで行う文化祭は行き過ぎである。育成プランを提示して欲しい。	対応困難	策定会議では、とりアートは一過性の文化イベントに終わるものではなく、イベント実施を通じた人材育成を目的とするものであるべき、という結論でした。なお、人材育成・活用プランは次期実行委員会で検討いただきます。
人材育成部会の委員には県外の適任者に就任いただきたい。		対応困難	委員募集は県内で公募を取り入れて行われます。県外の方を就任いただくことは考えていません。	
人材育成事業の具体的なスケジュールや施策が盛り込まれていない。		対応困難	事業の詳細については構想の中で記載することはせず、次期実行委員会で検討いただく予定です。	
19 人材育成の在り方を実行委員会内で協議いただきたい。	対応済	構想では人材育成の具体的な事業内容は次期実行委員会で検討いただく旨記述しています。		
20 参加事業	参加事業の多さが事業を分散的に見せ、鑑賞者には分かりづらくなっている。また、名義による浸食イメージを持つ。スマートにすべき。	対応困難	参加事業については、とりアートの県民への定着のため、広く募集する予定としています。	
21 22 事業内容	とりアートと文振財団の事業内容は重なっている部分が多いので、これらを淘汰し、県文連の活動内容を主体にすると本来の目的の事業になるのでは。	対応困難	とりアートは当事業への県民一人ひとりの主体的な関与を目指すものであり、特定の団体の活動のみを主体とするものではありません。	
	旧市町村単位でやっている祭に対し、サポートしていくべきではないか。とりアートが普及しない原因もそこにあるのではないか。	今後検討	実施に当たり、運用で対応(市町村等との具体的な連携については次期実行委員会で検討いただきます。)	

カテゴリー	意見概要	対応状況	対 応
23	若い世代に実行委員として参加いただくため、委員の人選を40代までに限定する。	対応困難	実行委員の公募については、年齢制限を設ける予定はありません。
24	実行委員、各地区委員、評価委員相互の人的交流が不可欠。	今後検討	実施に当たり、運用で対応(それぞれの委員間での交流まで構想に盛り込む必要はないと考えます。)
25	質を高めるためには、実行委員にプロ的な人材が必要	対応困難	実行委員の公募については、応募資格を設ける予定はありません。
26	イベント終了時に意見交換会を実施することが必要	今後検討	実施に当たり、運用で対応(委員会の具体的な運営については次期実行委員会で検討いただきます。)
27	文化芸術の事業を行うなら、芸能大会のようなイベントとの棲み分けを行えるコーディネーターが必要。	今後検討	実施に当たり、運用で対応(具体的な事業内容等については、次期実行委員会で検討いただきます。)
28	アートマネジャー及びプロデューサーについては、必要性が不明。また、明文規定を願う。	対応済	別に公表する予定の「とりアート構想の手引き」をご参照下さい。
29	委員を全て公募にした場合、委員会の運営に支障を来す。	反映	再検討した結果、見直しを行いました。
30	市町村等との協働について強調すべき	対応済	構想では、市町村等との協働により、県内の文化芸術活動の裾野拡大を図るよう記述しています。
31	地区事業における出展者、出品者から実行委員を選出してはどうか?	対応困難	実行委員は公募制が基本とされています。
32	とりアートに関連する各組織と役割分担の明確化が必要。	対応済	別に公表する予定の「とりアート構想の手引き」をご参照下さい。
33	9年間で成し遂げたことの記述が少ない。成果検証が必要。	対応困難	策定会議ではこれまでの成果検証を行い、県内の文化芸術活動の裾野拡大や人材育成、文化芸術活動のレベルアップに一定の成果があった旨の評価が行われました。なお、成果検証まで構想に盛り込むことは馴染まないと考えます。
34	今までの期間、どのような取り組みがなされたのか	対応困難	とりアートでは、 ・メイン事業として主に県内の文化資源を題材とする舞台作品を制作し、 ・人材育成事業として、アートマネジャーの育成に取り組み、 ・各地区企画運営事業として県民公募による多様な文化芸術事業を実施してきました。
35	人、エリア、年齢層等関わりの大きい催しにもっと予算を付けるべき。	今後検討	実施に当たり、運用で対応(とりアートの予算については、次期実行委員会で検討いただきます。)
36	人材育成、広報に対する予算を充実させる。広報はマスコミとの連携を深め、県民に親しみやすいイベントにする。	今後検討	実施に当たり、運用で対応(とりアートの予算、具体的な広報については、次期実行委員会で検討いただきます。)
37	詳細な収支報告の公開が必要。	対応済	現在でも収支報告はホームページ上で公開しています。
38	公民館や県文連等他の団体の個別事業ととりアートは別物であり、連携はなじまない。連携するのであれば、名義での連携でなく、実行委員として企画運営に関わるべき。	対応済	構想では、主催者はとりアート実行委員会及び県に限定しており、名義での連携は解消しています。また、実行委員は公募を基本として選定されることとなっています。
39	今、構想をまとめる意味が不明瞭	対応困難	現在の「基本方針」が今年度で終期を迎えること、事業開始から9年を経て、県内の文化状況の変化や県から文化振興財団への事務局の移管等とりアートを巡る環境が変化していることを受け、新たな構想の策定が必要とされたものです。
40	当初の構想と今回の構想はどう違うのか	対応困難	とりアート構想はこれまでの「基本方針」に代わるもので、これまで網羅的かつ総花的でよく分からないと指摘されていた表現を具体的なものに改め、目的や事業内容、推進体制等を明記しています。
41	「中間とりまとめ」は詳しくすぎて分かりにくい。もっと簡潔に。	対応困難	骨格的な記述としてこの程度は必要と考えています。
42	アンケートを採るだけでなく、吸い上げを望む。	対応困難	コメントには誠実に対応させていただきます。